

長岡 あーかいぶす 第 11 号

編集・発行／長岡市立中央図書館文書資料室

<http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm>

連載 長岡の碩学 (11)

片山 翠谷

初代 1786～1846

二代 1841～1897

初代 片山翠谷 (天明 6～弘化 3)

初代片山翠谷 (すいこく) (為右衛門) は、町同心として町方の巡視や治安の維持、犯罪者の捕縛、火災への対応などの職務に従事しました。その一方で、絵画の分野では「翠谷」の号を名乗り、人物画や農耕図、長岡城下の風景や風俗を描き、多くの作品を残しています。

翠谷は、新潟や京都で活躍した画家・五十嵐俊明の高弟である清水維明から絵を学び、俊明の画風を修得したといわれています。「長岡城下年中行事図絵」は、彼の代表作といえるでしょう。同心としてつとめるかたわら、城下の人々の暮らしや風景を見つめ描いた初代翠谷の作品は、江戸時代の長岡の様子をいきいきと今に伝えています。



▲「端午節句市中飾の図」(長岡市立中央図書館蔵)

二代 片山翠谷 (天保 12～明治 30)

初代翠谷の死後、片山家は同じ町同心の大村家から養子・修徳を迎えます。養家の跡を継いで町同心をつとめながら、「翠谷」の号も継いで初代の画風を学びました。さらに、三条や東京まで絵の勉強に出掛けて腕を磨き、独自の画風を確立させたのです。『長岡歴史事典』の表紙に使用されている「北越雪中実景」など、二代翠谷も長岡の風景や人物を描いた多くの作品を残しました。



▲片山翠谷 (二代) 画「北越雪中実景」(部分) (個人蔵)

また、「魯英」(ろえい) の俳号も初代から受け継ぎ、俳諧の分野でも活躍しました。元治元年 (1864) には、長岡の俳諧の指導者・倉地百汲や、長岡の女流俳人・まさ女とともに「悠久山奉頌句合」の選者をつとめています。季節を詠んだ魯英とまさ女の連句から、一部を紹介します。

川といふ川皆澄みて秋の月 (まさ女)

只真白に芒ほゞける (魯英)

(中略)

いつの間に炭団の籠のからに也 (まさ女)

雪車曳てゆく人の騒がし (魯英)

季節の中に人々の暮らしや風景を写實的に描き出す作風は、その画風と共通しているようです。

初代と二代、二人の翠谷が描き、詠み、残した数多くの作品は、甲乙つけ難い、どちらもかけがえのない長岡の財産です。

(桜井奈穂子)

【主な参考文献】○本山幸一『越後長岡の江戸時代』高志書院 平成 18 年、○本山幸一『越後長岡藩の研究』高志書院 平成 19 年、○『長岡市史』通史編上巻 平成 8 年

【第 2 回 郷土の歴史資料展示会】

「城下町長岡を描いた絵師 片山翠谷展」

会場：互尊文庫 3 階 郷土史交流室

期日：8 月 12 日(金)～21 日(日)。18 日(木)休館。

文書の虫

～「帝都」での「花鯉」宣伝～

古志郡竹沢村（山古志地域）星野家文書は、中越大震災発生後、家の解体作業をしていた業者の方が「大切なものだから」と空き箱に入れ、保管してくれたため、散逸を免れました。

星野家文書には、山古志地域の代表的な文化・産業のひとつ、錦鯉の養殖に関連する資料が含まれています。例えば、日本愛鯉協会のパンフレット。錦鯉は「花鯉」と称され、「大正三色」「丹頂」「伊達娘」といった品種の鯉が優雅に泳ぐ姿が、写真入りで紹介されています。

また、このパンフレットには、星野家7代目の仙之丞が、山古志連合養鯉組合長として記した挨拶文も掲載されています。「帝都」（東京）の皆さんの力添えを得て、国内はもとより、海外へも宣

伝したいと、その意気込みを記しています。

日本愛鯉協会は、東京市王子区（現北区）の帝都水園美計画部の中に置かれました。パンフレットの作成年代は記されていませんが、東京市に合併し王子区が設置されたのが昭和7年（1932）、また、昭和8年の『北越新報』の記事で仙之丞が山古志連合養鯉組合長であることが確認できることから、そのころのものとして推定されます。

日本愛鯉協会は、東京の公庭園・水園に、「世界的逸品国産花鯉を放養愛育して日本庭園美の真髄を發揮したい」と掲げ、婚礼・出世・長寿などの記念の放魚を勧めています。そして、「生産地の人びとは鯉をあたかも家族のように愛し、優秀な鯉の生産は無二の創作・芸術・誇りである」と記しました。

災害から守られた文書資料が、地域の伝統産業の原点を物語ります。

（小林良子）



▲「花鯉」（錦鯉）を東京の人びとに向けて宣伝するパンフレット（日本愛鯉協会作成、左上に星野仙之丞の挨拶文）

●ボランティアの皆さんの協力を得て山古志地域の文書資料を整理しました



▲作業の合間にミニ講義を聞きながら坂牧家文書を閲覧

6月25日（土）・26日（日）、山古志公民館種苧原分館（旧種苧原小学校）にて、中越大震災で被災し、昨年9月に返還した文書資料の整理作業を行いました。新潟歴史資料救済ネットワーク（新潟大学教官・学生、高校教員、博物館・文書館職員など）や長岡市資料整理ボランティアの皆さんなど、のべ74人が参加して旧役場の文書を中心に整理。被災資料の「現地保存」「現地活用」に向け、着実に活動を重ねました。（田中洋史）

災害と文書資料室(7)

東日本大震災への対応から

地震の発生

3月11日(金)午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生した時、文書資料室がある市立互尊文庫の建物も、ゆっくりと大きく揺れました。翌3月12日(土)には、長野県北部を震源とする震度6強の地震が発生。県内でも十日町市・津南町で被害が発生しました。

被災地の資料ネットの取り組み

地震と大津波による甚大な被害が発生するなか、比較的早い段階から、写真アルバムなどの思い出の品を保存する活動が報道されました。そして、被災地では、国、県、市町村、大学、資料ネット、地域の研究者などが、地域の文化遺産を守るために懸命な取り組みを続けています。

例えば、阪神・淡路大震災以後、各地に誕生した歴史資料を救済するネットワークは、ボランティアを募集しながら、古文書や民具などの被災資料を地域と連携しながら救出しています。東日本大震災の被災地では、NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワーク、山形文化遺産防災ネットワーク、ふくしま歴史資料保存ネットワーク、岩手歴史民俗ネットワークなどが活動中で、茨城や神奈川では資料ネット立ち上げの準備会が設立されました。

災害から被災資料を守る取り組みが、さらに広がりつつあります。

文書資料室の取り組み

文書資料室では、東日本大震災への対応として、問い合わせのあった被災地の図書館・博物館へ当室の取り組みをまとめた長岡市史双書No.48・49『新潟県中越大震災と史料保存(1)(2)』を寄贈しました。

また、長岡市内に開設された東日本大震災の避難所の資料を、社団法人 中越防災安全推進機構と連携して収集しました。避難所の掲示物・配布物、避難者への応援メッセージ、避難所へ届けられた福島県の地元新聞、被災地の自治体が避難者へ送ったお知らせ文など、ダンボール約45箱分になりました。

収集した資料は、今後、長岡市資料整理ボランティアの協力を得ながら、今年10月に開館する長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」と連携して整理を行う予定です。県外への避難を余儀なくされた被災者に対して、市民や行政がどのような支援を考え、行動したのか。経験を伝えるため、災害アーカイブス資料として後世へ保存します。

情報発信と連携

新潟歴史資料救済ネットワーク(事務局:新潟大学人文学部・矢田俊文研究室)は、震災発生当初からメーリングリストを使って、広く県内外の取り組みを伝えています。各資料ネットもホームページやブログを立ち上げ、情報発信を続けています。

文書資料室でも、中越大震災の経験を活かして、今後も情報交換と経験交流をはかりながら、災害から歴史資料を守るネットワークの構築に努めていきたいと考えています。

(田中洋史)

●歴史の好きな子、集まれ!～歴史学習教室で史料保存を体験

7月16日(土)、文書資料室に歴史の好きな小学生が集まりました。長岡市の“熱中!感動!夢づくり教育”事業の一環として科学博物館が実施する歴史学習教室が、文書資料室を会場に行われました。今年で5回目です。

文書資料室の利用の仕方を学んだり、歴史資料の整理・保存作業を体験したりと、盛りだくさんの内容でした。熱心にメモをとりながら話を聞く姿も見られました。これをきっかけに、歴史に興味をもつ子どもたちが増え、気軽に文書資料室を利用してもらえればうれしいです。
(桜井奈穂子)

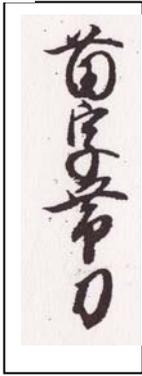


▲郷土史交流室で作業を体験
～慎重にホコリを払います

①



②



安禅寺文書「御用記」より

ヒント ①はっけよーい、のこった！
②武士の特権ですが、町人や百姓にも許されることがありました。

古文書クイズ十一
くちよつと一息く

読み方と住所・氏名・電話番号を、葉書・FAX・メールで文書資料室へお送り下さい。平成23年11月1日必着。全問正解者の中から抽選で5名の方に粗品を差し上げます。

【前回の答え】①生類あはれみ ②新田畑開発

《新たに公開した所蔵資料一覧》

※寄贈・寄託・購入順。保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- ・「ナガオカ丸大」買物袋（現代、1点、小倉進氏寄贈）
- ・国鉄長岡駅発行厚紙切符（現代、3点、前田英丈氏寄贈）
- ・阪之上小学校卒業記念帳（近代、1点、須藤三恵子氏寄贈）
- ・北蒲原郡聖籠村山倉水戸部家資料（近世・近代、32点、水戸部十久明氏寄贈）
- ・古志郡雨池村阿部家文書（追加）（近世・近代、577点、阿部洋子氏寄贈）
- ・古志郡西片貝村土田家文書（近世、89点、土田其一氏寄贈）
- ・三島郡大島村・水梨村文書（近世、48点、本井晴信氏寄贈）
- ・三島郡飯島村文書（近世・近代、5点、本井晴信氏寄贈）
- ・樋口敬義収集清酒ラベル（現代、19点、雪に関する酒のラベル、田所仁氏寄贈）
- ・刈羽郡桐沢村野田家資料（近世～現代、136点、桐沢村の俳諧資料等、野田桂子氏寄贈）
- ・「いそしぎ」資料（現代、7点、メニュー表等、稲垣美知子氏寄贈）
- ・越後国地図（近代、1点、富山賢次氏寄贈）
- ・『古事記』（写本）（近代、3点、笠原信氏寄贈）
- ・樋口敬義蔵書（現代、468点、山本五十六関連の書籍、橋本英俊氏寄託）

●長岡市史双書No.50の刊行と読む会の開催

文書資料室では、このたび長岡市史双書 No.50 『蔵王権現領安禅寺御用記(4)御用記(安永2年～天明8年)』を刊行（頒布価格1,500円、文書資料室・市内書店で絶賛発売中）。この本をテキストに長岡市史双書を読む会を開催しました。



平成15年から始まった読む会は、執筆者が解説を行い、より一層深く郷土長岡の歴史を知ることができる、文書資料室おすすめの講座です。今年、6/3・17、7/1・15と計4回開催。のべ197人が受講しました。

（石井順子）

▲田所和雄氏のお話を熱心に聞き入る受講者の皆さん
（会場は長岡市立中央図書館講堂）

《編集後記》▽学生時代、初めての古文書整理は、長谷川邸（越路地域）でした。夏が来ると、タオルで鉢巻して汗が落ちるのを防ぎながらの作業を思い出します。仕事の原点の一つです。（田中洋史）
▽歴史学習教室に参加してくれた小学2年の男子。熱心に書いているメモをのぞくと、野本恭八郎を「とぼるときょうはちろう」、文書資料室を「もんどしりょうしつ」…。何ともかわいらしい仲良し2人組でした。（桜井奈穂子）

平成23年8月1日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室

スタッフ：石井順子、田中洋史、小林良子、桜井奈穂子

田中祐子

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町 3-1-20

（長岡市立互尊文庫2階）

TEL0258-36-7832、FAX0258-37-3754

E-mail：monjo@nct9.ne.jp